

音楽科教育 実技研修会 終了報告

テーマ	サウンド本位で考える音楽科の鑑賞指導・創作(音楽づくり)指導	
日時	令和 元年 12月 3日(火)	
会場	恵庭市立柏陽中学校	
講師	北海道教育大学札幌校 教授 寺田 貴雄 氏	
参加者	18 名	
研修会 の 様子		<p>音楽外のイメージや言葉などを優先するのではなく、実際に鳴り響く「音」や「音楽」に児童生徒が向き合うことで音・音楽そのものに対する音楽的思考が促されることを優先する音楽科教育のことを「サウンド本位の音楽科教育」とまとめた。サウンドを中心に指導を行っていくことでイメージや雰囲気優先しすぎることなく、音楽の諸要素についても触れ、サウンドを中心に捉えながら学習を進めていくことができるというお話がありました。</p>
		<p>「新学習指導要領における音楽科の改訂のポイント」として、今回は小中学校とも共通しているところが改訂されていることが示されました。「知識及び技能」「思考力判断力表現力など」「学びに向かう力・人間性など」3つの柱で考えられているが、これは小学校から上級学校まで皆共通である。背景には考える視点をたくさん働かせましようという考えがあることもお知らせ頂きました。</p>
		<p>「鑑賞指導の基本的な考え方」として音楽鑑賞指導のポイントを5つ提示して下さいました。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①聴取対象の明確化 ②聴取結果の注視 ③聴取過程の可視化 ④聴取結果の共有化 ⑤表現と鑑賞の相互関連のポイントごとに実際の鑑賞曲で確認することができました。



特に鑑賞で獲得した内容を表現領域に生かしたり、それを逆にしたりと表現と鑑賞の相互関連を意識して展開することによって、音楽の理解が深められ、音楽学習の総合的な展開を図ることができることも再確認しました。



最後に、「音楽づくり創作指導の基本的な考え方」「音楽づくり・創作指導の実際」ということで、今後は「身の回りのすべての音を使い、子ども自らが音楽をつくる活動であること」や「自分にとって価値のある音や音楽をつくること」が新しいタイプの創作であること、創作の活動を孤立させず、「歌唱・器楽・鑑賞」の活動と結びつけて、音楽の総合的な感受理解を深めることをご提案して頂きました。今後に向けてたくさんの示唆を頂いた、実り多い会となりました。